

手芸教室で刺繍の指導をしながら 自らも創作展に出品。

辻 たけ子さん (公社) 全国シルバー人材センター事業協会 (神奈川県横浜市) 92歳

より多くの人に手芸の
楽しさを。

手芸や洋裁の学校を卒業し、一時は服飾メーカーの依頼を受けて洋服を作っていたこともある辻たけ子さんは、自分のためだけでなく、より多くの人に手芸を楽しんでもらいたいと、昭和57年、60歳の時に文部省（現文部科学省）認定の日本手芸普及協会で刺繍の講師免許を、翌年には指導免許を取得しました。

指導者の資格を得た辻さんは、62歳で、まだ立ち上がりつ間もない横浜市のシルバー人



材センターに入会。昭和60年、第1回の横浜市シルバー人材センター創作展に手芸作品を出展し、その後、現在に至るまで年一回開催される創作展に毎年出展し続けています。

ただ一人、第1回創作展から現在まで出品している辻さん。「今では、そういうこともありませんが、会員がそれぞれ作ったものを持ち寄って、都内のデパートのバザーで売ったりしたこともありまして」と当時の思い出を振り返ります。

講師として手芸の指導に尽力。

平成7年の第11回横浜市シルバー人材センター創作展に出展していた辻さんの手芸作品を見た一般の方から「是非教わりたい」という申し出がありました。

最初は個人的な指導をしていましたが、平成9年、75歳の時にシルバー人材センター南

事務所で手芸教室を開くこととなり、講師として活動を始めました。

10人ほどの生徒さんが集まり、刺繍やパッチワークの技術を生かした手芸の指導を行います。現在に至っています。

健康に歩ける限り手芸を続けたい。

90歳を超えた現在も、横浜市シルバー人材センターの本部で、月一回9時から12時まで3時間にわたって3人の受講生の指導をしている辻さん。

「毎月、何を教えようかと考えるのは大変ですけど、生徒さんが楽しみにしているの、張り合いになります」と楽しそうに語ります。

また、創作展への出品も続けており、「いつも出展作品のアイデアを考えています。去年とは同じにならないように、今年は何を作ろうかなと

考えている時間が一番楽しいです」と意欲を見せています。歩くことを健康の秘訣としている辻さん。日々、できるだけ歩くことを心がけ「創作展に歩いて作品を持っていく限りは手芸を続ける」と目標を定める等、健康にも気を配って創作活動を進めています。

こうした辻さんの生き方や健康管理の姿勢は、手芸講座の受講者にもお手本となっており、良い影響を与え続けています。

